

TRANSITION TO HEALTH (098)

“ 新型コロナウイルス感染 ②4 ”

～ ワクチンの副反応『不妊症』はデマではない！ ～

はじめに

NHK『フェイク・バスターズ』（新型コロナワクチンと誤情報）について

8月10日22時から放送されたNHK特集『フェイク・バスターズ』をご覧になられたであろうか？ 国の方針と合わない情報は全て『デマ』、ワクチン接種に対して否定的な意見・主張は全て『デマ』とし、反対論・慎重論を唱える研究者・科学者らの意見を紹介することもなく、討論の場を設けることもなく、『デマ』とする科学的根拠を示すこともなく、ファイザー社元副社長兼最高科学責任者であったマイケル・イードン博士のことを「ファイザー社元職員」とだけ軽々しく扱い、博士の発言



を全否定し、デマ情報を発信する中心人物であるかの如く決めつけていた。また、「政府・厚生労働省が発信する情報＝正しい情報」「ネット上に拡散する情報＝デマ」と決めつけているようであった。ワクチンが開発・接種され始めてまだ1年も経っていない時点で、「接種後1年以降の重大な副反応は無い」と断言しているようであった。ワクチンの「安全性」が確認されていないから「緊急使用承認」された筈である。日本人は「安全性確認」のための「臨床試験に参加させられている」とも言えるのである。



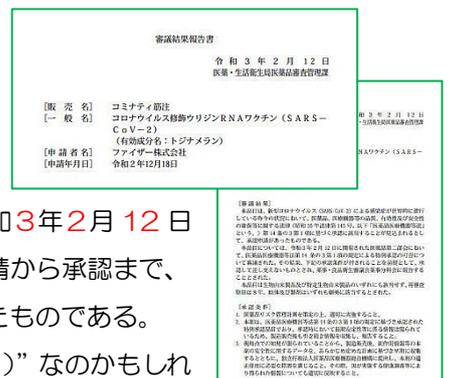
今回の特集番組は、ワクチンメーカーやWHO、政府、「こびナビ」などの接種推進派の情報のみを伝えていた。中立性が全く保たれておらず、「放送法の規定に違反した犯罪ではなからうか？」と思われるほどの内容であったと感じた。

かつてのNHKは素晴らしい番組を制作していた。「病の起源」などの『NHKスペシャル』や『クローズアップ現代』の大ファンであった私だが、今回のNHK特集『フェイク・バスターズ』は酷く、最近の新型コロナに関する“特別番組”も一つである。ワクチンの「安全性」は、健康・命に関わる大切な重要な問題である。ワクチンメーカー、ビル・ゲイツ氏、WHO、

ジョンズ・ホプキンス大学、ハーバード大学やロックフェラー大学などの「ワクチン推進派」の意見のみを伝えるのではなく、ノーベル生理学・医学賞を受賞した複数の科学者からの警告や、スタンフォード大学、マサチューセッツ工科大学などの著名な教授・科学者たち「ワクチン慎重派」の意見も、差別することなく伝えて、中立的立場を堅持して欲しかったものである。

政府・厚生労働省も『不妊』の可能性は・・・承知済み??

ワクチン担当の河野行革担当大臣が最近、「医者でデマを流す」と仰っておられたが、私も「デマを流す医者」と言われることのないように、厚生労働省の正式文書である『審議結果報告書』(右)に基づいてお話をすることといたします。デマではありません。



ワクチン『コミナティ筋注』は、ファイザー社が令和2年12月18日に申請、令和3年2月12日に開催された医薬品第二部会において審議され、「緊急承認」された劇薬である。申請から承認まで、通常は9か月から12か月かかるところ、申請からわずか56日でスピード承認されたものである。

報告文章の中に黒塗りされた部分が何箇所もある。黒塗りは政府機関の“お家芸(?)”なのかもしれ

ないが、人体に接種するワクチンの審議報告書ではやめて欲しいものである。～～ **本ワクチンは遺伝子組み換えの劇薬です。**

含有成分、試験成績の一部につきましては、企業秘密ですので非公表とさせていただきます（？） ～～

～～「本食品は**遺伝子組み換え大豆**を使用しております。含有成分につきましては**企業秘密**ですので**非表示**とさせていただきます」～～ もし、こんな食品があったら、あなたは口にしますか？ 口にはしないでしょ。ワクチンは、代々受け継がれてきた“秘伝のたれ”とは違う。命に関わる大問題である。

さて、A4版で73ページに及び報告文から、妊孕性に関わる部分を中心に見てみよう。該当箇所の全文を引用することはできないので、黒塗りにはしないが(笑)、「***」で省略させていただきます。

◆ **遺伝毒性、発癌性に関する試験は実施されていない**

『5.3 **遺伝毒性試験** 本剤に含まれる mRNA は天然型の核酸から構成され、新添加剤(***、**)にも遺伝毒性の懸念がないことから、本剤を用いた遺伝毒性試験は**実施されていない**。』とある。また、

『5.4 **がん原性試験** 本剤は臨床での使用が**6カ月以上**継続される医薬品ではないことから、本剤を用いたがん原性試験は**実施されていない**。』とある。現在、3回目接種(ブースター接種)も検討され始め、毎年接種との話まで出てきている。“6か月”では終わらない！ がん原性試験は必要なのでは・・・

◆ **接種48時間後 卵巣に LNP (Lipid Nanoparticles) が集積 ⇒ 永久不妊の可能性？**

『4.2.2 ³H 標識ルシフェラーゼ遺伝子発現 mRNA-LNP の分布(***) ラット(雌雄各3例/群)にルシフェラーゼ遺伝子発現 mRNA-³H 標識 LNP15)が RNA 量として 50 μg 単回**筋肉内投与**され、投与48時間後までの放射能の組織分布が検討された。**投与部位**の放射能濃度は、投与1時間後に最高値(394 μg lipid eq./g)を示した後、経時的に減少し、投与**48時間後**では 165 μg lipid eq./gであった。投与部位以外で放射能が認められた主な組織は、肝臓、脾臓、副腎及び**卵巣**であり、投与8～48時間後に**最高値**(それぞれ26、23、18及び**12 μg lipid eq./g**)を示した。』とある。ワクチンをラットに筋肉注射したところ、**mRNA-LNP** が筋肉を出て、血流あるいはリンパ流に乗り、終着駅ともいえる**卵巣**に到達し集積したのである。

◆ **卵巣に集積した LNP が排泄されたというデータはない ⇒ やはり、永久不妊の可能性！**

『4.R.1 本剤の**非臨床薬物動態**について ***非臨床薬物動態試験は**実施されていない**ことから、***本剤 mRNA である本薬を **LNP** に封入した製剤である。*** LNP に封入することで mRNA が代謝されることなく宿主細胞内に取り込まれ、細胞質内でタンパク質を発現することが可能となる。***本剤を**筋肉内投与**した場合、本剤は主に投与部位に分布し、**一部は全身**(主に肝臓)へ一時的に分布し、それぞれで**タンパク質を発現**するが、いずれの部位でも時間の経過とともに本剤及び発現したタンパク質は**消失すると推察された**。』とある。**卵巣に到達した mRNA-LNP が、スパイクタンパクを合成し発現するのである。しかし、体外に排泄された(消失した)というデータは無く、遺伝的影響のデータも無い。卵巣には、肝臓のような解毒能力は無く、腎臓のような排泄能力も無い。「卵巣から消失すると推察する」こと自体が非科学的である。**他のファイザー社の内部文書にも「卵巣に蓄積」することが記載されており、「脂質ナノ粒子抱合 mRNA は**卵巣に高濃度に蓄積**し、卵巣の細胞の DNA に**取り込まれる**」とあることから、『**不妊症**』になる可能性が懸念されるのは当然のことである。

◆ **女性のみならず、男性も永久不妊の可能性あり。ワクチンで『不妊症』はデマではない！**

新型コロナウイルスのスパイク蛋白の標的は、我々ヒトの血管内皮細胞に存在する **ACE2 受容体**とされている。**ACE2** は、**卵巣・精巣**で重要な役割を果たしている。もし、**スパイク蛋白**が(ヒトの ACE2 に代わって) **ACE2 受容体**に結合し、その機能を阻害してしまえば、**卵子形成・精子形成**に重大な**悪影響**を及ぼすことは容易に想像できるし、理解できる。

また、安全性について、『7.R.3 **安全性**について 機構は、本剤の安全性について、以下のように判断した。提出された資料における本剤の安全性情報は、*** **現時点**で本剤接種後**長期の十分な安全性データは得られていない**ことには**留意が必要**である。その上で、***』とある。日本人は「**安全性確認**」のための「**臨床試験に参加**」しているのだと理解すべきである。

おわりに

NHK 特集『**フェイク・バスターズ**』の中で、「**こびナビ**」のある医師が「今回のワクチンは、数日以内に体内から消えるので、長期的な副反応は考えにくい」と述べていたが、明らかに彼は、ファイザー社の今までのデータや政府報告書の全文に目を通していないと思われる。ワクチン接種の拡大を図ることによって、取り返しのつかない結果にならないことを祈るばかりである。NHK・民放各局などの**マスメディア**が**公共の電波**を使って、「**ウウチン推進派**」の**情報のみ**を伝え、「**ワクチン慎重派**」の主張・警告をことごとく誤った情報として「**デマ扱い**」してきた。世界の国々では多くの人が、ワクチンの**安全性**に疑問を抱き始めている。“若者たちよ、**ワクチンを打たないで!**” “**自然免疫力を培おう!**”

